

## ◇森元淑雄君

○議長（高橋 猛君） 次に、14番、森元淑雄君の一般質問を許可いたします。森元淑雄君、登壇願います。

（14番 森元淑雄君 登壇）

○14番（森元淑雄君） おはようございます。通告に従って一般質問をいたしますが、その前に今定例会は12月定例会でありますので、秋田のこの1年の出来事を振り返りながら、質問のほうに移りたいと思います。

2014年の幕開けも、内陸南部を中心に4年連続の記録的な豪雪に始まりました。そんな中で、3月には県内初となるモーグルの全国大会フリースタイルスキー秋田・田沢湖モーグル競技会が田沢湖スキー場で開催され、大観衆を魅了したすばらしい競技会であったと伺っております。5月には、待望のJ A秋田厚生連が運営する大曲厚生医療センターがオープンいたしました。また、日本創成会議が、地方からの人口流出がこのまま続けば30年後には全国の自治体の半数で20代から30代の女性が半数以下に減り、自治体消滅のおそれがあるとする驚くべき試算を公表し、本県は大潟村以外の全ての市町村がそれに該当すると試算されましたが、これはどのような根拠で出されたのかわかりませんが、これ以降、地方創生という言葉が使われるようになったと思っております。8月には角館高校が甲子園初出場を果たすなど、県南地区の野球レベルのアップを実感したところでありました。そして、9月にはJ A全農あきたの2014年産米概算金であきたこまち1等米60キログラム当たりが前年より3,000円低い8,500円となり、これは驚くべき金額であり、もう秋田では農業が成り立たないのではないかなどの声がささやかれたところでもありました。10月に入っては、国文祭の開催や第67回秋季東北高校野球大会で本県第1代表の我が母校でもあります大曲工業高校が準優勝を果たし、春の選抜出場の切符を待つばかりとなります。また、優勝した仙台育英高校は、秋の神宮大会でも優勝し、東北地区には選抜枠がもう1校ふえ、3校が甲子園に行けるのではないかとも思っております。いずれにしましても、来年の1月23日の選考委員会の朗報を心待ちにしているところであります。

さて、本題の質問に入りますが、最初に新年度予算編成における基本的な方針や考え方、姿勢などについて伺います。

合併後10年がたち、先般10周年記念式典を行いました。町長はこの10年間を振り返りながら、また新たな気持ちで次なるステージに向かっての予算編成中と思われませんが、そのような中で新たな美郷となり得る予算編成のポイントはどこに置いておるのか、また今後のまちづくりに対する基本的理念はどのように考えておるのか、伺います。また、事業効果をより向上

するためにも、P D C Aサイクルを常に取り入れることが非常に大事なことだと私は思っているところではありますが、新年度予算においては、その検証や評価についてどのように結びつけ、事業計画に反映させていくのか、お伺いいたします。

次に、地方創生、まち・ひと・しごとについてであります。政府はこの選挙後にまとめる「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に沿った地方版総合戦略を策定した自治体に対し、比較的自由度が高い交付金を支給する仕組みを検討している模様であります。その内容については、まだ具体的には明示をされていないのが実情であります。

また先般、石破 茂地方創生担当相が秋田市に来県し演説されましたが、その際に「人口減少率が一番高い秋田に地方創生のトップを走ってほしい」と述べられておりました。そのような観点からお伺いいたしますが、美郷版地方創生構想なるものを町は考えておるのかお伺いいたします。

○議長（高橋 猛君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまのご質問にお答えいたします。

初めに、新年度予算編成の基本方針についてですが、美郷町が誕生して10年が経過し、新年度は普通交付税の漸減の初年度となりますが、現時点での見通しでその影響額は前年度比較で1億2,000万円程度の減と予想しております。加えて米価下落などの影響による町税収入の落ち込みなども懸念しており、新年度予算編成に当たっては、歳入において財源確保の観点から例年以上に厳しい状況であること、そのため歳出においても厳しい歳入環境を踏まえ十分に歳出内容を精査すること、その上でこれまで積み重ねた美郷町の取り組みの計画性及び着実性には十分に配慮することをポイントとして臨みたいと考えているところです。

また、そうした認識のもと、来年度のまちづくりについては、現在策定を進めております第2次美郷町総合計画の検討状況を踏まえながら、町民にとってさらに住み心地のよい美郷を目指し、引き続き自治体間交流や大学交流、そして民間企業との交流などを促進し、ふるさと美郷に対する誇りを高めてまいりたいと考えております。

そうしたことで、町民はもとより町外の方々にも美郷町が癒しとにぎわいを感じる町となるよう、町民各位の自発的なまちづくりへの参加も促進しながら、そして癒しの町、にぎわいの町美郷を早期に確立することを理念に各般にわたる取り組みを推進してまいりたいと考えております。

また、現在、町では目標管理制度における39の目標管理項目に関し、職員面接を行うととも

に、47事業の中から抽出したまちづくり戦略プロジェクト事業についてもヒアリングを行い、事務事業の進め方や成果の検証、評価等を実施しておりますが、その実施目的はまさに議員ご発言のPDCAサイクルを職員に意識させ、PDCAサイクルを機能させることで施策目的を効率的に達成させていこうというものです。

私としましては、こうした取り組みの積み重ねを通じ、各般の施策において施策の進め方を修正するものは修正し、施策そのものもスクラップ・アンド・ビルドするものはそのようにし、その結果として各年度の予算が状況や環境に合わせて適切な内容となるようにしてまいりたい意識ですので、今後ともその認識を堅持し、新年度予算編成につなげてまいりたいと考えております。

次に、地方創生についてですが、本年11月21日に「まち・ひと・しごと創生法」が成立し、11月28日に公布されたところです。同法では、国は人口の現状及び将来見通しなどを踏まえ、まち・ひと・しごと創生に関する目標や施策に関する基本的方向、施策を総合的かつ計画的に実施するために必要な事項等を定めるものとされており、年内をめどに作業が進められております。

また、都道府県及び市町村は、国が策定するその総合戦略等を勘案し、各区域におけるまち・ひと・しごと創生に関する施策についての基本的な計画、いわゆる議員おっしゃいました地方版総合戦略を、平成27年度末をめどに定めるよう努めなければならないこととされております。

一方、現在の美郷町の取り組みは、議員ご承知のとおり、平成17年度に定めました美郷町総合計画に基づき各般の施策を展開してきており、その計画目標を最終的に人口確保に置いております。具体的には、平成26年における総人口を2万1,000人確保するというものです。計画検討時はもっと少ない人口になる推計でしたが、強めの目標人口を設定し、その人口を確保するために住みよい環境を整備、結果として将来にわたり活力ある美郷町を構築していくよう各般にわたる施策を考え、現在に至っているところです。その意味においては、美郷町は既に地方版総合戦略に相当する戦略を美郷町総合計画として策定し実践してきていると自負するわけですが、今後法律に基づいて策定に努めなければならない地方版総合戦略については、こうした取り組み実績を踏まえ、現在策定中の第2次美郷町総合計画と機軸を合わせた内容にしてまいりたいと考えているところです。もちろん間もなく示される国の総合戦略との整合は意識しなければなりませんし、県が策定する総合戦略との整合ももちろん意識し、実効ある地方版総合戦略にまとめてまいりたいと考えているところですので、ご理解をお願いいたします。以上です。

○議長（高橋 猛君） 再質問ありますか。（「はい」の声あり）森元淑雄君。

○14番（森元淑雄君） まず最初に、予算編成のポイントについて再質問をいたしたいと思いま

す。私は、予算編成のポイントの一つに、公共工事の工期のあり方についてもその一つではないかと思っております。と申しますことは、ここ数年、大雪であり、工期の設定については、この雪国の実情にそぐわないように見受けられるからであります。会計年度のこともあるうかとは存じますが、もう少し再考する余地があるのではないかと思うものです。例えば春先の着工に向けての債務負担行為の設定や繰越制度をより一層活用するなど、あわせて国庫補助事業についても弾力的な運用を図るべきではないかと思うところではありますが、その点については、町長はどのように考えておられるのか、ご所見をお伺いいたします。

○議長（高橋 猛君） 答弁を求めます。町長、自席でお願いします。

○町長（松田知己君） ただいまの再質問についてお答えいたします。

議員もご承知のとおり、会計年度独立の原則がありますので、基本は当該年度において予算を執行し、完了することが基本です。ただし、やむを得ない場合、明許繰越等において複数年度にまたがる、繰り越す事例もあるわけですが、雪国であるということを理由にいたずらに会計年度独立の原則を壊すものは執行者としてはいかなるものかというふうに考えております。議員ご指摘の雪国に合わないと言っている部分がどこの部分が合わないのか、そしてそれを合わせるためにどういう工夫ができるのか、それを単年度でできないのかといったことをよく議論するべきであらうと思っておりますので、ご意見として賜りたいと思っております。

○議長（高橋 猛君） 再々質問ありますか。（「はい」の声あり）森元淑雄君。

○14番（森元淑雄君） 再々質問ではございませんが、地方創生戦略についてもう1回、質問ではございませんけれども、申し述べたいと思っております。

地方創生戦略については、徐々にその骨子となる案が出てきておるところではありますが、それは大半が今までの各省庁の施策に寄せ集めた数値目標だけを掲げたもののように思うところがあります。いずれにしましても、美郷町においては、ただ交付金目当ての素案づくりではなく、何十年後の美郷を見据えたものでなければならないものと思っております。キャッチフレーズにもあるとおり、みんなでさっさつ、もっといい町になるよう、オール美郷で力強く再生ができる道を切り開く気概で取り組んでいかなければならないと考えるものです。

答弁は要りません。これで私の質問を終わります。

○議長（高橋 猛君） これで、14番、森元淑雄君の一般質問を終わります。